

第3章 市民ワークショップ

3-1 市民ワークショップの目的

本ワークショップは、宮川・水上地区の土地区画整理事業において、次代を担う若い世代の意見を一定の作業を通じて把握し、計画に反映させるべく行った。また、今後、長期にわたる予定の事業期間を通じて、参加者の関心を本事業に寄せてもらうことも目的とした。

3-2 市民ワークショップの実施

(1) 概要

日時 : 平成30年12月8日(土) 13:00~17:00

対象 : 市内の大学生、大学院生、短大生、専門学生、高校生

参加者 : 高校生10名(男子4名、女子6名)

大学生15名(男子5名、女子10名) 合計25名

(2) 参加者の募集方法

①静岡市のホームページへの公開(平成30年9月25日~)

http://www.city.shizuoka.jp/930_000046.html

②大学への個別訪問

市内4大学の地域大学連携関係の部署及び市内の高等学校に概要説明を行い、募集の協力をしていただいた。別途、静岡市企画課が参加している「市内大学連携プラットフォーム」という会議があり、情報の共有を図った。

(別添8 市民ワークショップ 実施案内チラシ 参照)

(3) 企画構成及びファシリテーター

市内の学生とコネクションがあり、ワークショップのファシリテーターとして実績のある「NPO法人 わかもののみち」に企画の提案及び当日の進行を委託した。

(別添9 NPO法人わかもののみち 法人概要 参照)

(4) テーマ

「10年後の未来をつくろう!」というテーマを設定し、「10年後の静岡がどう変化するのか? どう変化することを望んでいるのか?」を同世代の仲間と話し合いながら、共通認識を探していくこととした。

(5) 実施内容

市内の大学生や高校生に向けて、宮川・水上地区のまちづくりの意義を説明し、今後どのようなまちづくりが望ましいのか、その潜在的な需要を把握できるように内容を設定した。(別添10 市民ワークショップ 概要及び内容 参照)

- ・オリエンテーション(テーマとするのは交流及び静岡らしさとはなにかが課題である事を説明。)
- ・参加者相互コミュニケーション
- ・動画による宮川・水上地区の紹介
- ・未来のシナリオづくり
- ・企画書作成
- ・総括

図表3-1 当日の様子



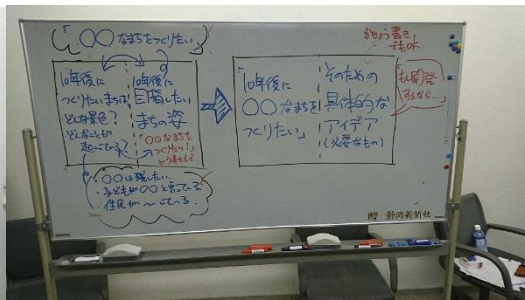
オリエンテーション



グループワーク



発表



企画書づくりのガイダンス

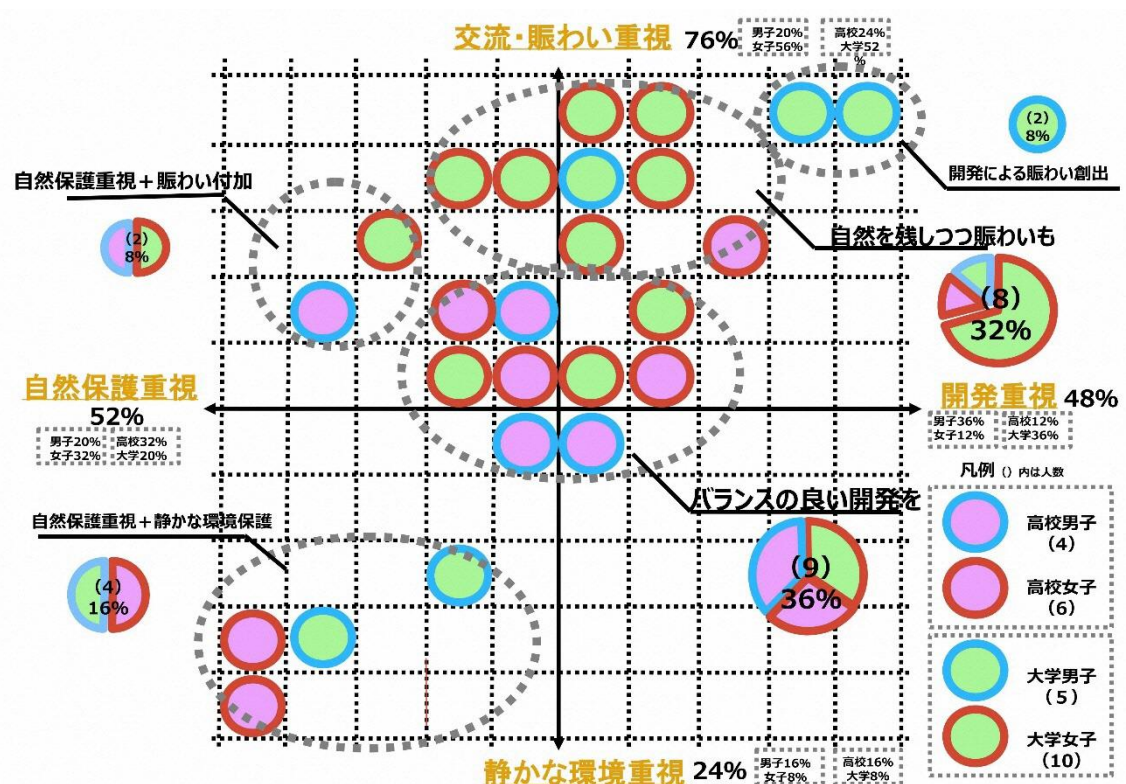
(6) 結果

参加者から出された意見は、以下のような傾向があることが分かった。

- ①自然保護と開発をバランスよく開発するという意見が最も大きかった。36%
- ②自然を残しつつ賑わいを創出するという意見が次に多かった。32%
- ③自然を残し、静かな環境を残してほしいという意見も一定数あった。16%

- ④自然をそのまま残して、かつ賑わいも欲しいという意見もあった。8%
- ⑤開発による賑わい創出の希望は8%であった。
- ⑥男女別の傾向として、女子は自然を残しつつ賑わいも欲しいという意見が多い。
男子は、開発に肯定的な意見があり、現実的にとらえていると考えられる。
- ⑦高校生、大学生別の傾向として、高校生の方が自然保護の傾向が強い。これは地元で生まれ育った人が多く、愛着が強いからではないかと思われる。

図表3-2 意見の分布状況



(7) 考察

市民ワークショップの実施を通じて、以下のことが今後のまちづくりに重要であることが考察される。

- ①この地の特徴である里山の風景と富士山が見える特徴を生かした、開発が望まれている
- ②賑わいは必要だが、都市と農村が共存する静岡らしい開発の姿を検討する必要がある
- ③大学との連携、観光地との連携の必要がある

3-3 市民ワークショップ参加者へのフォローアップ

ワークショップの成果を共有し、当初の目的の一つである、関心を持ち続けていただくため、メール等により参加者へのフォローアップを行った。下記にフォローアップした内容を示す。

(1) 計画に活かす方向性の考え方

「開発と保存のバランス良く」というテーマを具体的に進めるためには、以下に示す2つの手法があること。

①イメージの共有

開発事業者と市民および地権者・行政が共有できる「農地・緑地空間と市街地」のバランスのとれた形をイメージ図などで視覚化する。

②数値目標の設定

- ・敷地面積による緑化率
- ・建物建築による環境負荷の数値目標の設定 *CASBEEなど
- ・景観維持のための建物の高さ、色彩などの制限
- ・看板の大きさ、色彩などの制限

(2) 農地・緑地空間を保存することのメリット

- ・環境との共存の姿が観光客の誘客に有益であること
- ・街全体のCO₂削減ができ、維持可能な都市づくりに有効なテーマであること

(3) 農地・緑地空間を保存することの課題

- ・あまりに強い制限は、事業者理解を得られないので、計画が進まなくなる可能性があること